



2023年4月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年9月7日

上場会社名 サトウ食品株式会社
 コード番号 2923 URL <https://www.satosyokuhin.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 2022年9月9日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 佐藤 元
 (氏名) 佐藤 浩一
 TEL 025-275-1100

(百万円未満切捨て)

1. 2023年4月期第1四半期の連結業績(2022年5月1日～2022年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年4月期第1四半期	6,729	12.4	264	243.8	362	151.8	285	182.0
2022年4月期第1四半期	5,984		77	74.9	144	63.0	101	60.4

(注) 包括利益 2023年4月期第1四半期 350百万円 (%) 2022年4月期第1四半期 10百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年4月期第1四半期	56.60	
2022年4月期第1四半期	20.07	

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2022年4月期第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年4月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、売上高の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年4月期第1四半期	36,496	16,572	45.4
2022年4月期	36,345	16,475	45.3

(参考) 自己資本 2023年4月期第1四半期 16,572百万円 2022年4月期 16,475百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年4月期		0.00		50.00	50.00
2023年4月期					
2023年4月期(予想)		0.00		50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

詳細は、本日発表の「業績予想及び配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2023年4月期の連結業績予想(2022年5月1日～2023年4月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)									
通期	39,742	1.8	2,582	4.3	2,897	2.6	1,887	2.6	374.12

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細は、本日発表の「業績予想及び配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年4月期1Q	5,075,500 株	2022年4月期	5,075,500 株
期末自己株式数	2023年4月期1Q	31,712 株	2022年4月期	31,687 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年4月期1Q	5,043,806 株	2022年4月期1Q	5,043,934 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項などについては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの新規感染者が増え続け、かつてないスピードでの感染拡大により、未だピークが見えない状況ではあるものの、政府は「感染症対策と社会経済活動の両立を図る」として、かつてのように緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などの行動制限を求めておらず、停滞していた景気の回復が期待される状況となりました。しかし、一方で、ロシア・ウクライナ情勢の深刻化、急速な円安の進行等によって、原材料・エネルギー価格の高騰に起因する仕入れ価格・物流コストの上昇、これらによる商品価格の上昇に伴う個人消費停滞の懸念等、先行き不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、昨今の生活スタイルの変化や消費者の購買行動の変化を背景として、家庭内で消費される食品に対する底堅い需要に支えられている反面、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う景気停滞、ロシア・ウクライナ情勢に端を発する世界規模でのエネルギー供給不足など、先行き不透明な状況下での各種食料品の値上げ発表が相次ぎ、消費者の節約志向に注視が必要な状況を迎えております。こうした環境変化を受けて、当社を取り巻く経営環境は「原材料価格の高騰」「新型コロナウイルス感染禍の継続」「それに伴う従業員の労働環境における安全の確保」「お客様への万全の供給体制の整備を最優先としたオペレーション」といった複合的な要因によって各種コストが上昇基調にあることもあり、引き続き厳しい局面が続くものと予想しております。

このような状況のもと、当社グループは引き続き、安全・安心に重点をおいた包装米飯及び包装餅製品の安定供給、並びに適正価格での販売に努めることを基本に事業活動を推進してまいりました。具体的には、おいしさの追求はもちろんのこと、お客様の消費動向を捉えながら、多様化するニーズに対応可能な生産体制の整備を進めるとともに、新型コロナウイルスと“共生”する事を前提とした市場変化に対応すべく、「米食回帰・健康維持・多様化をキーワードとした新たな食の創造」を提案し、全社一体となった営業活動に取り組むことで業績の拡大を図ってまいりました。また、前年に引き続き包装米飯及び包装餅双方の通年需要の喚起を目的とした広告宣伝を実施する事で、喫食機会とブランド認知の拡大に努めて参りました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、包装米飯及び包装餅製品ともに主力製品を中心に堅調に推移し、67億29百万円（前年同期比12.4%増）となりました。利益面につきましては、販売の増加と生産性向上による利益率の改善を要因として、営業利益は2億64百万円（前年同期比243.8%増）、経常利益は3億62百万円（前年同期比151.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億85百万円（前年同期比182.0%増）と、いずれも前年同期を大きく上回る結果となりました。なお、親会社株主に帰属する四半期純利益については、第1四半期連結累計期間としては過去最高の実績となりました。また、当社グループは主力製品である包装餅が季節商品（特に鏡餅）であり、その販売が年末に集中するため、第3四半期連結会計期間の売上高及び利益が他の四半期連結会計期間に比べ著しく増加する傾向があります。

製品分類別の販売動向

当社グループは、食品事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載を省略しておりますが、製品分類別における販売の動向は以下のとおりであります。

(包装米飯製品)

包装米飯製品は、近年の社会構造や生活様式の変化に伴い、パックごはん市場全体が拡大傾向にある中、新型コロナウイルス感染禍において「ストック」できることが、新たな食材選びの重要なポイントとされるなど、消費者の意識に変化が見られております。また、小麦を中心とした穀物の価格高騰を受け、価格が比較的安定しているコメの存在感が高まり、米食に回帰する動きが活発化しております。

これらの消費動向の変化を背景に、まとめ買いニーズへの対応や食物繊維で始めるおいしい新健康生活の提案など様々な販売促進活動により、包装米飯製品の「家庭のご飯に代わる」日常食化に取り組んで参りました。

また、通年需要の喚起を目的に、当社独自の釜炊き製法をアピールするテレビCM『サトウのごはん「ふっくら釜炊き編」』、「サトウのごはん8食パック」の発売に合わせたテレビCM『サトウのごはん「多幸（炊こう）感」』を引き続き全国放映いたしました。これらの取り組みとともに、当社の包装米飯が日本古来の炊飯方法を忠実に再現した独自の製造技術（厚釜ガス直火炊き）により電子レンジによる2分間の加熱で家庭と同様のふっくら炊き立てのごはんを再現できること、また、製品名に原料米の産地銘柄を明確に表示していること、さらに、賞味期間が1年と長期保存が可能であるという特長が、お客様における利便性及び安全・安心のニーズの高まりと昨年から続く新型コロナウイルス感染禍の新しい生活スタイルを背景とした内食需要の高まりにマッチし、お客様から引き続き高い支持を得られたことで、売上高は堅調に推移いたしました。

その結果、包装米飯製品の売上高は56億86百万円（前年同期比14.0%増）となり、第1四半期連結累計期間としては過去最高の実績となりました。

(包装餅製品)

包装餅製品においても通年需要の喚起に積極的に取り組んでおります。

まず、これまで「プレミアムライン」、「レギュラーライン」、「トライアルライン」の3つにセグメンテーションしていた切り餅の商品ラインナップに、普段の生活や行動の範囲内で手を出せる高級品、いわゆる“プチ贅沢”需要にお応えする、「プライムライン」を追加し、「サトウの切り餅 特別栽培米新潟県産こがねもち」の商品開発を進めてまいりました。

次に、女優の芦田愛菜さんが当社グループのみが個包装に使用している酸素を吸収する「ながモチフィルム」の特徴(鮮度保持剤なしでつきたての美味しさを24か月保持)を紹介するテレビCMや、切り餅「いっぼん」のスティック形状を活かした様々な召し上がり方を消費者の皆様に提案するテレビCMを継続的に放映することで、当社包装餅商品のブランド認知の深化に努めてまいりました。さらに、餅商品の喫食機会向上と新たな消費者層の獲得を目的として、人気動画クリエイターとタイアップした動画制作を行ってまいりました。

年末商材である鏡餅については、引き続きダウンサイジング化が全体的に進んでいることから、「どこでも簡単に飾れる手頃なサイズの鏡餅!」をコンセプトとして商品開発を進めるとともに、その気軽さから市場に広く受け入れられている小飾りシリーズのアイテム充実やパッケージリニューアル、サッと鏡餅シリーズのパッケージリニューアルを図るなど、年末の販売増加に向けての取り組みを実施してまいりました。

また、流通における取り組みとして、鏡餅を店舗で陳列する際の開封作業の軽減を目的として開発した、段ボールを開封するとそのまま商品の陳列ができる「簡単! 楽ちん段ボール」を引き続き採用し、取扱店の拡大に努めてまいりました。

包装餅の販売は、昨年末から続く様々な食料品の値上げに対して、当社餅商品は従来通りの価格で販売提案を行った結果、小売店各社の売上対策と当社提案が合致したことで、例年以上に販促機会が増加し、売上高は堅調に推移いたしました。その結果、包装餅製品の売上高は10億37百万円(前年同期比4.6%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は164億48百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億53百万円増加いたしました。

これは主に売掛金が15億21百万円、原材料及び貯蔵品が5億27百万円、現金及び預金が4億5百万円減少したものの、商品及び製品が28億30百万円増加したことによるものであります。

固定資産は200億48百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億1百万円減少いたしました。

これは主に投資有価証券の新規取得および保有する投資有価証券の時価総額の増加により、投資有価証券が3億43百万円増加したものの、減価償却の進行に伴い有形固定資産が4億77百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は364億96百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億51百万円増加いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は127億40百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億69百万円増加いたしました。

これは主に未払金が20億82百万円、未払法人税等が5億13百万円減少したものの、運転資金としての短期借入金が29億円、買掛金が2億77百万円増加したことによるものであります。

固定負債は71億83百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億15百万円減少いたしました。これは主に長期借入金の減少によるものであります。

この結果、負債合計は199億24百万円となり、前連結会計年度末に比べ53百万円増加いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は165億72百万円となり、前連結会計年度末に比べ97百万円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上及び剰余金の配当があったことによるものであります。

この結果、自己資本比率は44.0%(前連結会計年度末は45.4%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年4月期の通期(2022年5月1日～2023年4月30日)の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大による影響が不透明であり、販売動向の見通しを立てることが困難であったため未定としておりましたが、当第1四半期の業績並びに現時点で入手可能な情報や予測等に基づき算定しましたので公表いたします。

なお、今後、新型コロナウイルスの感染拡大状況等が変化し、業績に与える影響が大幅に変動すると見込まれる場合には、連結業績予想の修正を適切に公表してまいります。

詳細につきましては、本日公表いたしました「業績予想及び配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,665,818	1,259,887
売掛金	8,381,837	6,860,462
商品及び製品	1,862,194	4,692,614
仕掛品	579,128	497,233
原材料及び貯蔵品	3,521,282	2,993,824
その他	192,880	150,978
貸倒引当金	△7,720	△6,300
流動資産合計	16,195,422	16,448,699
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,581,764	5,497,799
機械装置及び運搬具(純額)	6,374,167	6,049,988
土地	2,343,620	2,343,620
その他(純額)	622,199	553,007
有形固定資産合計	14,921,751	14,444,416
無形固定資産	893,178	969,966
投資その他の資産		
投資有価証券	1,306,289	1,649,801
投資不動産(純額)	2,382,526	2,376,524
その他	674,457	635,691
貸倒引当金	△28,130	△28,130
投資その他の資産合計	4,335,142	4,633,887
固定資産合計	20,150,072	20,048,270
資産合計	36,345,494	36,496,969

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2022年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年7月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	829,338	1,106,919
短期借入金	3,100,000	6,000,000
1年内返済予定の長期借入金	2,611,878	2,558,658
未払金	3,982,159	1,899,861
未払法人税等	598,000	84,725
引当金	270,203	206,475
その他	779,463	884,042
流動負債合計	12,171,043	12,740,681
固定負債		
長期借入金	6,463,454	6,029,317
引当金	248,094	177,348
退職給付に係る負債	835,854	837,189
その他	152,007	139,570
固定負債合計	7,699,410	7,183,425
負債合計	19,870,453	19,924,106
純資産の部		
株主資本		
資本金	543,775	543,775
資本剰余金	506,000	506,000
利益剰余金	15,016,367	15,049,670
自己株式	△37,619	△37,745
株主資本合計	16,028,522	16,061,699
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	504,358	560,614
退職給付に係る調整累計額	△57,838	△49,450
その他の包括利益累計額合計	446,519	511,163
純資産合計	16,475,041	16,572,863
負債純資産合計	36,345,494	36,496,969

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年5月1日 至2021年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年5月1日 至2022年7月31日)
売上高	5,984,629	6,729,539
売上原価	4,387,047	4,813,771
売上総利益	1,597,581	1,915,767
販売費及び一般管理費	1,520,574	1,651,043
営業利益	77,007	264,723
営業外収益		
受取配当金	7,749	14,891
受取賃貸料	46,292	49,937
副産物収入	32,946	34,771
その他	23,466	33,482
営業外収益合計	110,454	133,083
営業外費用		
支払利息	6,954	8,663
賃貸費用	23,309	22,389
固定資産除却損	8,634	-
その他	4,516	4,091
営業外費用合計	43,415	35,145
経常利益	144,047	362,662
税金等調整前四半期純利益	144,047	362,662
法人税、住民税及び事業税	6,671	67,334
法人税等調整額	36,141	9,834
法人税等合計	42,813	77,169
四半期純利益	101,233	285,493
親会社株主に帰属する四半期純利益	101,233	285,493

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年5月1日 至 2021年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年7月31日)
四半期純利益	101,233	285,493
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△120,345	56,255
退職給付に係る調整額	8,220	8,407
その他の包括利益合計	△112,125	64,662
四半期包括利益	△10,892	350,156
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△10,892	350,156
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(重要な設備投資)

当社は、2022年9月7日開催の取締役会において、以下のとおり固定資産の取得(米飯工場のラインの増設)を決議いたしました。

(1) 設備投資の目的

今回の生産ライン増設は、社会構造、生活様式の変化からパックごはんが「日常食」として認知された事により市場全体が拡大傾向にあり、当社主力商品である「サトウのごはん」の売上も堅調に推移している事から、生産設備の増強及び生産の効率化を図ることで、今後の需要増加に対応する事を目的としております。

(2) 設備投資の内容

名称 : 「サトウのごはん聖籠ファクトリー」2号ライン(仮称)
所在地 : 新潟県北蒲原郡聖籠町東港5丁目626番23ほか
用途 : 包装米飯製造ラインの増設
投資予定額 : 約45億円

(3) 設備の導入時期

工事着工日 : 2023年3月(予定)
生産開始日 : 2024年2月(予定)

(4) 業績に与える影響

当該固定資産の取得による今期の業績に与える影響は軽微であります。